

オミクロン株の感染状況について

3月21日までの期限をもってまん延防止等重点措置がすべて解除されていますが、新規感染者数は、全国的にみれば、1か月以上にわたり緩やかな減少が続いています。現在の感染状況は、継続的な減少傾向が見られた昨夏の感染拡大状況とは異なり、新規感染者数の減少は緩やかであり、未だに高いレベルで推移しています。今後 BA.2 系統に置き換わりが進むことで再度増加に転じる可能性があること、重点措置が解除されたことや、普段会わない方との接触の機会が増える春休みや年度替わりの時期を迎えることによる感染状況への影響に注意が必要です。

【重症度】

オミクロン株による感染はデルタ株に比べて相対的に入院のリスク、重症化のリスクが低い可能性が示されているが、現時点で分析されたオミクロン株による感染の致命率は、季節性インフルエンザの致命率よりも高いと考えられる。また、肺炎の発症率についても季節性インフルエンザよりも高いことが示唆されている。

【BA.2 系統】

海外の一部地域では BA.2 系統による感染が拡大している。国内におけるオミクロン株は、当初 BA.1 と BA.1.1 の海外からの流入がともにあったものの、その後 BA.1.1 が多数を占めるに至り、現在も主流となっているが、BA.2 系統も検疫や国内で検出されており、現在、BA.2 系統への置き換わりが進んでいる。このため、今後、感染者数の増加（減少）速度に影響を与える可能性がある。なお、BA.2 系統は BA.1 系統との比較において、感染性がより高いことが示されている。

これから年度末から年度初めにかけて、春休み・お花見・入学式等の多くの人が集まる機会が増える時期に入ります。引き続き、基本的な感染防止策の継続をお願いいたします。

（文責）常務理事 大西昭彦

（作成）保健師 大谷伊紗

引用参考：第 77 回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和 4 年 3 月 23 日、厚生労働省）

（第 77 回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード [資料 1](#)）